

2020・4/21

新型コロナウイルス感染における学校対策レポート from アメリカ
ーソーシャルディスタンスの中につながりを作るサンディエゴ学区の対応ー

こくご学園 学園長
学校心理士 木原美妃

「明日は学校？」 「明後日はみんなに会える？」 「その次は??またその次は？」 「4月になったらスイミング行ける？」と今年小学1年生になる息子に問いただされたのは、学校閉鎖となった3月16日から1週間程経った日のことだった。予定されていた日本語補習授業校の卒園式が中止になり、楽しみにしていた現地の学校行事も次々に中止となり、寂しさとこの先の不安を一気にぶつけてきたのだ。そして、私自身も米国疾病予防センターや世界保健機関の情報、また米国国務省やカリフォルニア州、学校が位置する学区からの発表を常に気にしなくては行けない日々に翻弄されていた。

カリフォルニア州は3月19日夜8時に発動された自宅退避命令(Shelter-in-Place Order)により深刻化する感染拡大とともに日に日に行動規制が厳しくなり、子どもたちが遊べる公園もビーチも閉鎖となった。4月10日現在、私たちに許されている外出は、必要最低限の買い物と健康維持のための徒歩圏内の散歩だけである。同居する家族以外の人とは6フィート(約1.8メートル)以上の距離を保たなくては行けないので、Stay-at-Home 命令が続く限りは、先生にも、もちろん友達にも会えない。

そんな中、学校は子どもたちの学習を止めない、教員と児童生徒のつながりを継続するために迅速に対応している。担任からの毎週送られてくるメールには、1週間の学習テーマと課題プリント、担任自らが自宅で工夫を凝らして授業をしている様子をYoutubeにアップロードしてくれる。息子のクラスでは保護者からの要望を受け、担任が毎週金曜日に1時間ほどWeb会議サービスを利用したオンライン授業もしてくれるし、担任自らがペンパルになって手紙のやりとりも申し出てくれた。担任とクラスメートの顔を見て過ごせる時間、担任との手紙のやりとりは、とても貴重だ。

学校区教育長より、4月27日から成績に反映されるオンライン授業を正式に開始すると連絡が来た。また、4月6日から24日までの期間は、全教員がオンライン授業を整える研修および準備を進めており、さらに全家庭を対象にパソコン、タブレットなどを準備できるかどうか確認するアンケートが配布された。オンライン授業開始に向けて学校区で40,000台以上のデバイス配布が始まっている。

夏休み明けまで学校閉鎖が続く可能性もあるカリフォルニア州において、就学中の子どもたちの学習は家庭で担うしかない。しかし孤立感や焦燥感がないのは、学校と家庭が密に連携しあい、つながり続けているという実感を持っているからではないだろうか。5月には先生たちに感謝の意を表すティーチャーアプリシエーションウィークがある。おそらく、保護者は先生に直接会えなくても心からの感謝の意を表すだろう。

※本レポートは著者が在住するサンディエゴ学校区のひとつの小学校での対応についてのレポートであり、他の学校区および学校で同じ取り組みがあるとは限らない。続報をお届けしたい。

著者の紹介：木原美妃 サンディエゴ在住の学校心理士。こくご学園学園長。津田塾大学卒業。ミシガン州立大学大学院教育学研究科でスクールカウンセリングを学ぶ。M.A. in Counseling。日本学校心理士会・日本学校心理学会会員。

学校心理学からのコメント：サンディエゴの学校における様子から、子どもが学校に通っていないときも教育は受けていることが分かります。「学習を止めない」と、
「教員と児童生徒のつながりを継続する」ことが子どもの教育の維持に欠かせないので、先生たちに感謝の意を表す「ティーチャーアプリシエーションウィーク」も、日本でも行えるといいですね。コロナウイルス感染危機における教育は、家庭にとっても学校にとっても初めての課題です。家庭・学校・地域が互いにできることを重ねることで、子育て・教育の質を維持していきたいと思います。（石隈利紀）




CLOSED
In line with County health guidelines to prevent the spread of the COVID-19 virus, all Parks and Recreation facilities are **CLOSED** until further notice.
For further information, please visit the City of San Diego website at www.sandiego.gov.

